

☆第二連区布教使研修会開催

去る八月二十六日・二十七日の両日において西本願寺高岡会館にて「第二連区布教使研修会」が開催され、『苦悩に伝える法話のあり方とは』布教する上での立脚点を考える』をテーマに第二連区内の布教使六〇名が布教のあり方について学びを深めた。

本研修会は研修テーマの他に、差別克服のための学びとして同朋研修が行われ『差別と布教―差別表現とは―』と題して同朋研修講師の岩本孝樹さん(同和教育振興会評議員 奈良教区常蓮寺住職)より、差別表現とは何かということについて講義をいただいた。岩本さんは「現代における差別は格差社会という形に表れています。この格差社会を正当化し支えているのが『自己責任論』であり、これは差別の原因を差別される本人に求める業論と非常によく似ている」「差別語と差別表現は必ずしもイコールではなく、自己責任論のように差別語を使わなくとも差別表現には成りえます」「差別表現であるかないかは発言した本人がどういうつもりで発言したかは関係なく、その発言によって傷つく人がいるかどうかで決まります。今日の差別の問題について学んでいなければ、無自覚のうちに差別に加担することにもなりかねません」と指摘された。

次に研修テーマ『苦悩に伝える法話のあり方とは』布教する上での立脚点を考える』について教区布教団員の杉谷淳志さん(川上組瑞泉寺住職)より問題提起があり「何度もとある他宗教の布教勧誘活動を受けましたが、その勧誘にいられた方は非常に上手に熱心に、教えの素晴らしさを説かれましたが、私自身がどんな悩みや苦しみを抱えているかということは一度も質問されたことも興味を示されたこともありませんでした。話を聞くたびに私にとっては何の意味もない時間の無駄だと感じました」「しかし、それは私たち真宗僧侶の法話を聞いた人も同じ感想を持っているのではないのでしょうか。その他宗教の方と同じように、聞く相手の苦悩を無視し、教えの素晴らしさを説くことや仏徳讃嘆に終始してはいないでしょうか? いったい何のための法話なのか、そのことを考えなければならぬ」と提起され、それを受けて分散会が行われた。

翌二十七日の全体会では「いったい何を話せばよいのか、これでいいのだろうか、という悩みはいつも付きまとう」という意見や「苦悩の現実から仏教は始まった。人々の苦悩を抜きに

して法話・布教はありえない」「一人の布教使が多数の参拝者に向かつて話をするという法話の形式では、個別の苦悩に伝えていくことはできない、普段からの付き合いの中でしか苦悩に伝えるということではできないのでは」「仏徳讃嘆そのものが目的化し、聞く人々の苦悩を置き去りにしてきただけではないか」などの意見が出された。

助言では講師の武田達城さん(元中央相談員)より「布教や法話は答えではなく、問題提起のような性質のものではないでしょうか。親鸞聖人は関東から命がけでやってきた門弟たちに対し、答えを示したのではなく、その人の話を聞いて、問題点や課題の整理をしました」「仏法とは聞いてスッキリ解決というものではなく、課題が見えてくる、今まで問題とも思っていなかったことが見えてくることではないでしょうか」「苦悩に『伝える』とは答えを用意するのではなく、その人にどう向き合うか、他者の苦悩に目を向け耳を傾けていくその姿勢です」と助言された。

★第十六回世界仏教婦人会大会開催

九月一日・二日にアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコにて「第十六回世界仏教婦人会大会」が開催され、今回の大会は「お念仏に生かされて」をテーマに大谷光淳門主ご臨席のもと、日本・北米・カナダ・南米・ハワイ開教区から千七百名が参加し、高岡教区からは仏婦会員・事務局含め二十四名が参加した。

基調講演でははじめに都路恵子さんが講演され、「お念仏でつながる」とはいうものの国によって文化も言語も考え方も違うのに無理ではないかと思っていたが、お寺にいつもお参りに来られていたお婆さんとの交流によって深く仏教の教えに触れるようになり、人生の様々なことで苦悩を抱えて生きなければならぬことや、生老病死は万国共通であり、お念仏の教えはその人類共通の苦悩に向き合う教えであったといただくようになったとお話しされた。またもう一人の講師である本好由紀子さん(北米開教区開教使)は、家族みんなが文武両道で才能豊かな中で自分一人だけがそうではなかったことに激しい劣等感や苦悩を抱えて生きてきたが、その自分が救われたのが浄土真宗の教えであったと話され、寺に生まれて幼い時から無理矢理法話を聞

かされてきたので、はじめは浄土真宗の教えは嫌いであったが、その中身に触れるにつれ、深く学びたいと思い、様々な挫折を経験しながらもその教えに救われたことをご自身の人生体験に基づいてお話しされ、その上で「真宗の教えに救われるとは、消したい過去や失敗を無かったことにしたり、帳消しにしてくれることではなく、自分の抱えている問題が何なのか、自分自身の姿を明らかにしてくれることではないでしょうか」とお話しされた。基調講演後には懇親会が開催され、各開教区の方々と交流できるよ



うに席が配慮されており、言葉が十分に通じなくとも身振り手振りなどを通じて和気あいあいとした雰囲気の中で大変にぎやかな懇親会となった。二日目の日程では北米・カナダ・日本・ハワイ・南米開教区からの取り組み発表があり、「日系人に対する差別や戦争時の強制収容所での体験から、差別や抑圧に立ち向かう生き方を志すと共に、虐げられた人々の手助けをしたい」と思い、ホームレスの支援に取り組むようになり、お念仏の教えはそのような生き方の支えとなった」等のお話をいただいた。

日程の最後に総会があり、仏教婦人会総連盟で開催している交換留学生制度は日本に留学する人はいても日本から開教区に留学する人はほとんどおらず、それは制度的欠陥が原因と思われるため、それが是正されるまでは日本からの留学生は募集を停止するということが報告され、閉会した。

▽高岡教区野球チーム四連覇ならず ～本山杯野球大会～

八月三十一日（土）、第五六回本山杯寺族青年野球大会（富山教区担当）が滑川市営本丸野球場にて開催され、寺族青年の親睦とともに熱戦が繰り

広げられた。今大会も、京都より本願寺チーム・富山教区本願寺クレシヤース、高岡教区野球部が、計三試合を戦った。

メインの試合である富山教区本願寺クレシヤースとの本山杯では、高岡教区が人数不足にて試合放棄になりかけたが、本願寺チームより助っ人を借りて試合を行い、終盤までもつれた試合展開の中、最終的には五対五の引き分けであった。続いて本願寺チームとの試合では人数が揃った高岡教区であったが、惜しくも三対四のサヨナラ負けで終わった。尚、本山杯は、引き分けであったが、規定により富山教区本願寺クレシヤースが獲得したため高岡教区は四連覇を逃した。

◆門徒宗会議員補欠選挙について

去る八月二十二日、門徒宗会議員元井實氏が逝去されましたことをうけ、宗派規程より、六十日間の内（期限：十月三十一日まで）に補欠選挙を実施します。選挙日及び選挙の方法は、宗告が發布され次第お知らせいたします。

▽総局巡回（公聴会併催）開催について

十月四日（金）午後一時より総局巡回（公聴会併催）を開催いたします。内容は、第一部総局巡回では、親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年についてのご消息披露、第二部公聴会では、①賦課基準の見直しについて【二〇二〇（令和二年）四月一日実施】及び僧侶育成体系プロジェクトについて（住職・坊守）についての説明及び意見聴取が予定されています。なお、宗報八月号に当日配布の資料が掲載されていますので事前に御清覧ください。

☆お知らせ☆

高岡教務所では今年度もカレンダーの注文を受け承ります。お電話で注文頂ければご寺院宛に配達を致します。

※担当の高島までご連絡ください。

法語カレンダー 150円

ほのぼのカレンダー 150円

月々のことば 700円

心に響くことば 120円

◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

同朋運動推進者養成研修会―現地学習会を実施―

高岡教区同朋運動推進者養成研修会の第三期が本年五月から始まり、十組十五名の方々が受講されています。八月二十二・二十三両日には第五回研修会として、奈良、京都方面への現地学習（フィールドワーク）が行なわれました。第一期第二期修了者を含め十二名が参加した今回の現地研修は、「被差別部落の歴史と今」を学ぶ内容。

初日は、一九二二（大正十一）年に全国的部落解放団体として創立された水平社の原点の地、奈良県御所市の「水平社博物館」を訪問。被差別部落の歴史と、水平社について学びました。特に今回は、日本で初めての人権宣言として、また被差別マイノリティが発信した世界で初めての人権宣言として高く評価されている「水平社宣言」特別展が注目されました。

続いて奈良県橿原市の「洞部落跡」を、現地ボランティアガイドの案内で訪ねました。「洞部落」は、一九一七（大正六）年、神武天皇陵一帯の整備計画が始まる中で「神武天皇陵を見下ろす場所に汚れた村があるのはけしからん」との差別観に基づく意見などにより、移転を余儀なくされた被差別部落です。広大な神武天皇陵敷地から、かつての村落の後を訪ねました。現在では宮内庁の事前申込みで立ち入りが許されます。共同井戸や下駄表の材料のため各家に植えられていた棕櫚の木など、百年の時間を超えて当時の生活を彷彿とさせます。「差別意識が、移転にあたっての隣接地域からの受け入れの拒否や、様々な移転条件にみられた」と現地ボランティアガイドさんは話して下さいました。

二日目に訪ねた京都市内の同和地区では、現地の部落解放同盟の役員さんに、戦国時代から現在までの地区の歴史を、二時間半にわたってお話頂きました。「明治になるまでは皮革産業などで比較的裕福だった地区が、明治の解放令以降貧困化し、差別も厳しくなった」とのお話と、「国の同和对策・地域改善対策事業の打ち切り（二〇〇二年）以降、行政対応が後退し地区内の高齢化が進むなど、地区内の状況を悪化させた。部落差別解消法が成立し行政の姿勢が少しずつ変化しつつあるが」とのお話が印象に残りました。

部落差別をめぐって近年、戦前の中央融和事業協会が実施した「全国部落調査」をまとめた冊子や復刻版を出版・販売する行為や、「全国部落調査」や「部落解放同盟関係者人物一覧」をインターネット上に掲載する行為、被差別地区の映像をプライバシーに配慮することなくインターネット動画で配信する事件が続いています。ネット上での掲載、あるいは出版する行為に対して、その差し止めを求める損害賠償請求裁判が戦われています。被差別部落出身者を理由に就職差別・結婚差別事件が後を絶たない中で、地区名公表や、氏名の公表は、本人・家族の情報を本人の承諾なく公表することです。

このような状況の中で、今回現地学習に応じて下さった方々は、「差別の現実を広く認知してもらい、差別のない社会をとものにめざしてほしい」との願いの中で、訪問者である私たちを信頼し、受け入れて下さった事と思われまます。

「共に差別のない社会をめざそう」との願いを裏切ることなく、しっかり応えたいと、心に刻まれました。

【教区同朋運動専門委員会委員 伯水永雄】

◇これからの日程（9/14～10/18）◇

	教区・財団行事	教化団体・組行事
9月		
14	常例法座	
17	千鳥ヶ淵法要団参 ～18	
19		若女性部会
20	僧侶研修会第2回目 将来構想委員会	
21	僧侶研修会第3回目	
25		仏婦実践運動研修会Ⅱ 長寿苑ビハー活動
26	連研活動連絡協議会	連区仏婦連絡協議会 寺院女性会研修旅行
27	将来構想委員会専門部会	
29		ふるこはんフェス（勝興寺）
30	北陸藤の会例会	
10月		
3		講社役員会 仏婦執行部会
4	総局巡回・公聴会	
7		総代会連絡協議会（～8）東海
9	聖典セミナー	
14	常例法座	
18		仏婦広報委員会

☆お知らせ☆

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（170袋） 8,300円

・1組（10袋） 500円

お申込み先は・・・高岡市東上関446 高岡教務所内
（寺族青年会担当）

Tel. (050) 5587-7708(代表)

メール hourin18@gmail.com

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎9/28（土）：坂上 良氏

（本願寺派布教使・高知県受法寺衆徒）

「私のものさし」

◎10/5（土）：坂上 良氏

（本願寺派布教使・高知県受法寺衆徒）

「僕、お坊さんになる」

◎10/12（土）：坂上 良氏

（本願寺派布教使・高知県受法寺衆徒）

「まことのお心をお聞かせ頂く」

□10/13（日）：岡西 有可氏

（高岡教区）

◎10/19（土）：熊谷 正信氏

（本願寺派布教使・山口県西福寺住職）

「ののさまと一緒に」

◎10/26（土）：熊谷 正信氏

（本願寺派布教使・山口県西福寺住職）

「未定」

□10/27（日）：林 史樹氏

（高岡教区）

【西本願寺高岡会館 10月の常例法座】

ご講師： 未 定

ご講題：『 未 定 』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。